

第59回
長崎県小・中学校児童生徒美術作品展

子ども県展

特別賞受賞者作品集



長崎県教育委員会
長崎県造形教育研究会



作品集発刊にあたって ～子どもたちの限らない可能性を見つめて～

この作品集では、県内の小・中学生から寄せられた7万点を超す応募作品の中から、特別賞(知事賞、教育委員会賞、造形教育研究会賞)を受賞した60作品を紹介しています。一次審査、二次審査、そして特別賞審査を経て、今年度も魅力ある、優れた作品が選出されました。

また、惜しくも入賞を逃した多くの作品も、それぞれに作者の感性や個性が溢れ、強い思いが伝わってくる力作ぞろいでした。試行錯誤を繰り返しながら「自分の手で」作品を完成させ、「子ども県展」に出品できたことだけでも大変立派なことだと思います。

県教育委員会及び県造形教育研究会では、よりいっそう、子どもたちの図工・美術に対する意欲・関心を高め、創造の喜びを体験させ、豊かな情操の育成を図ることを目指して、長崎県小・中学校児童生徒美術作品展「子ども県展」を開催するとともに、本作品集を発刊しています。

図工・美術の分野に限らず、子どもたちはそれぞれに「表現活動への欲求」と「限らない可能性」を秘めています。「子ども県展」の会場を訪れたり、この作品集を手にとった子どもたちが、「自分もこんな風に描きたい。」「こんな作品をつくってみたい。」という創作意欲をさらに高め、さまざまな作品づくりを通して、豊かな心を育ててくれることを願っています。そのために、本作品集を今後の作品制作や指導の参考にしていただければ幸いです。

昨年の夏、本県で全国高等学校総合文化祭「2013 長崎しおかぜ総文祭」が開催されました。各会場で全国トップレベルの作品や発表に触れた皆さんも多いと思います。今後も、図工・美術はもちろん、さまざまな芸術文化に子どもたちが接し、関心を高め、文化活動がより充実していくことを大いに期待しています。

結びに、本展の開催並びに本作品集刊行にあたり、御尽力いただいた多くの皆様に心から感謝を申し上げますとともに、受賞された皆さんの今後の御活躍を心から祈念いたします。

さあ、子どもたちの感性の扉を開いてください。

平成26年1月

長崎県教育委員会



長崎市立鳴見台小学校
2年 石川 紗



佐世保市立天神小学校
1年 笹原 滉太



長崎市立桜が丘小学校
3年 横尾 拓海



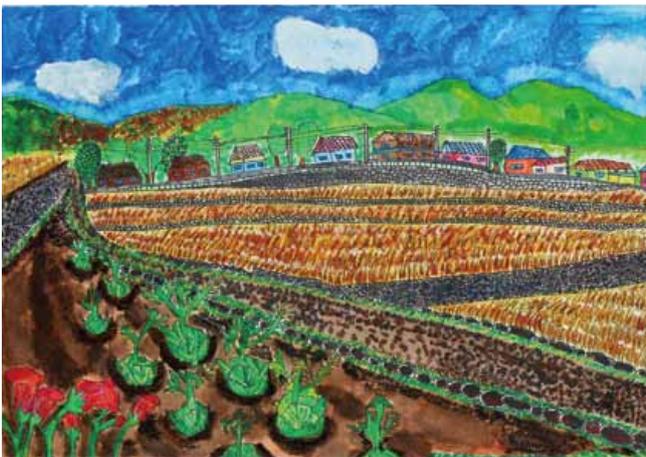
波佐見町立中央小学校
4年 松尾 亜弥



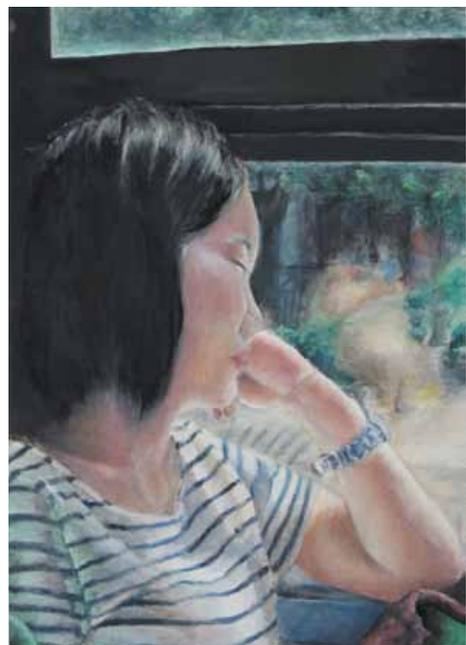
対馬市立小綱小学校
5年 齋藤 磨央



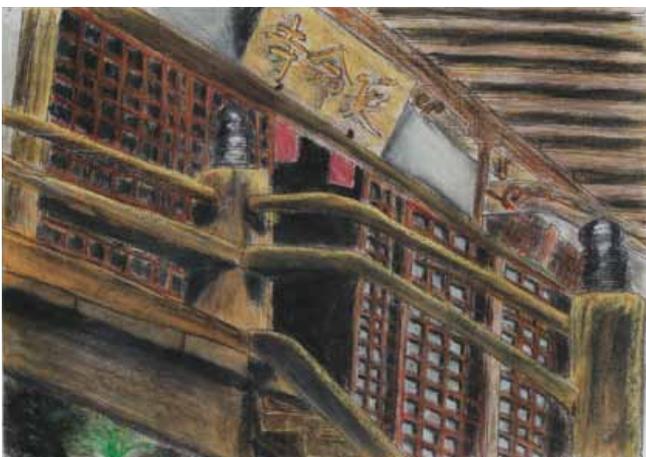
雲仙市立北串中学校
2年 松島 勇馬



雲仙市立八斗木小学校
6年 北浦 未悠



長崎市立東長崎中学校
3年 川口 美咲



平戸市立南部中学校
1年 大山 隆喜



佐世保市立広田小学校
1年 谷口 大和



対馬市立大船越小学校
3年 金丸 宗蔵



佐世保市立歌浦小学校
2年 本田 真菜



長崎市立西坂小学校
4年 高木 智也



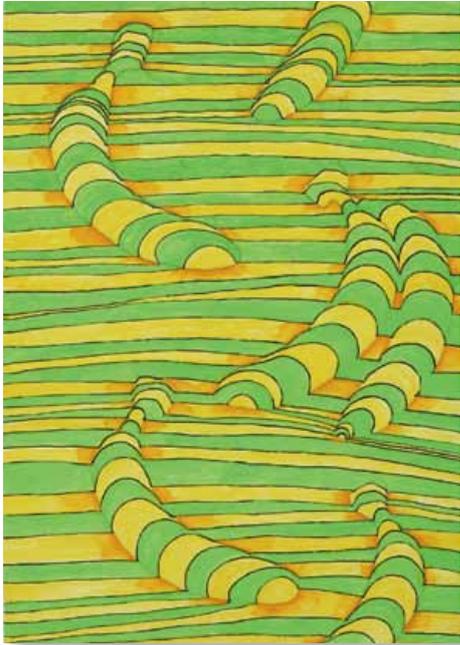
松浦市立福島小学校
5年 香川 芽那



県立佐世保北中学校
3年 徳勝 もなみ



五島市立本山小学校
6年 橋口 祥生



島原市立第一中学校
1年 吉田 奈巳



長崎市立三重中学校
2年 大水 萌々



平戸市立南部中学校
3年 大村 真子

知	事	賞					
立	体	部	門				



佐世保市立山澄中学校
3年 渡邊 のどか



時津町立時津東小学校
1年 田中 陸矢



諫早市立小栗小学校
2年 吉永 悠真



対馬市立小綱小学校
4年 作元 志優



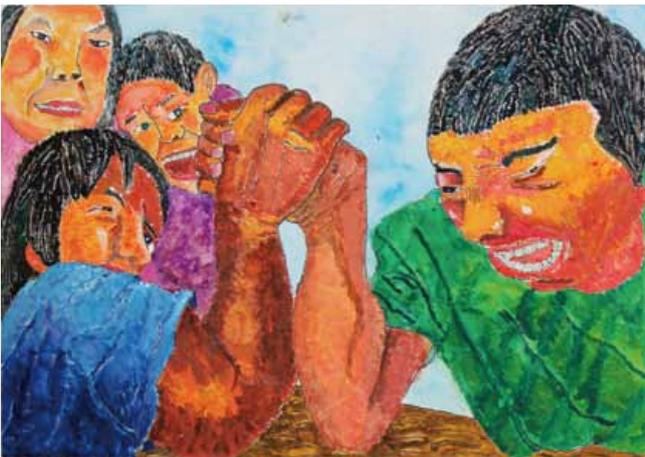
西海市立西海北小学校
3年 大町 怜由



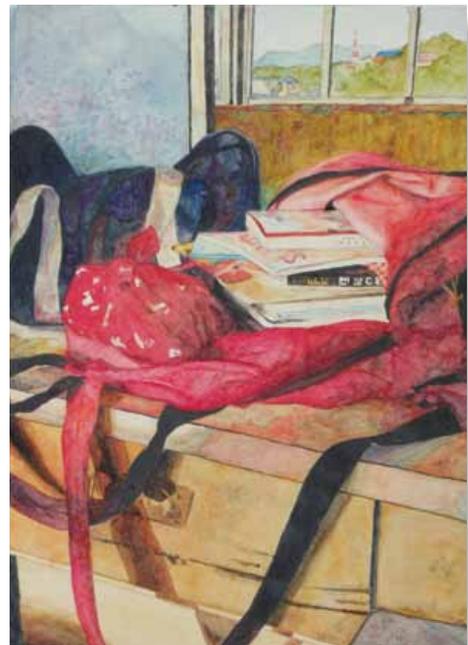
対馬市立佐須奈小学校
5年 阿比留 小雛



佐世保市立相浦中学校
1年 舩元 琉哉



諫早市立湯江小学校
6年 大津 祐太



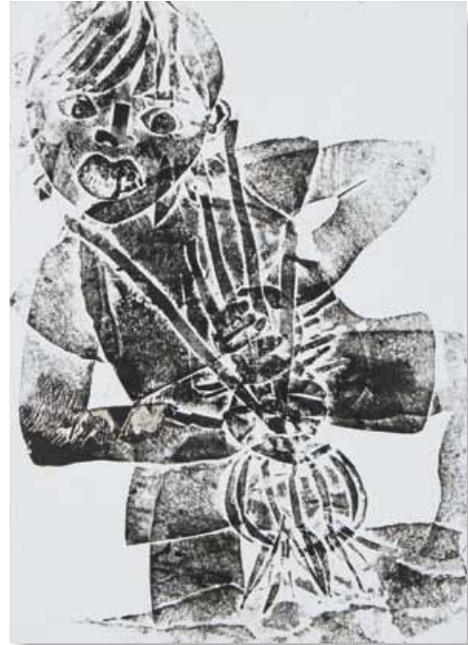
大村市立大村中学校
3年 金子 茉由



平戸市立南部中学校
2年 小川 華



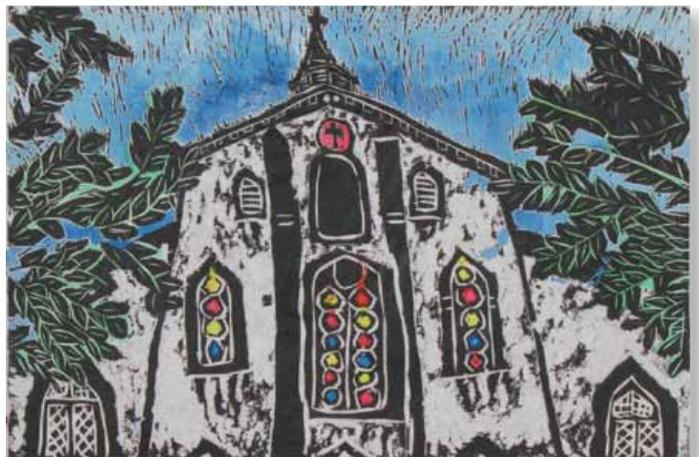
長崎市立城山小学校
1年 釜田 柚鈴



長崎市立伊王島小学校
3年 森山 美怜



対馬市立大船越小学校
2年 大庭 真衣



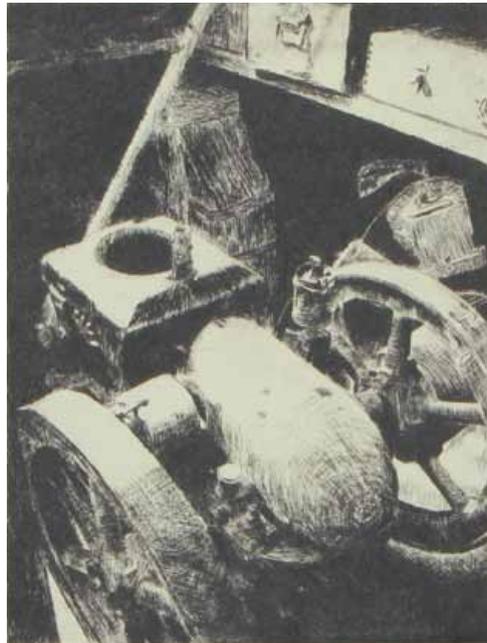
長崎市立大浦小学校
4年 下山 唄



長崎市立西浦上小学
5年 平山 依桜里



佐世保市立大野小学校
6年 山田 希



佐世保市立東明中学校
3年 中村 衣里



長崎市立橋中学校
1年 田中 穂香



長崎市立橋中学校
2年 大西 秀実



諫早市立琴海中学校
3年 川原 楓子

教	育	委	員	会	賞			
立	体	部	門					



島原市立第二中学校
2年 杉岡 神那



長与町立長与南小学校
1年 林田 球太



長崎市立城山小学校
3年 峰 宏紀



諫早市立長田小学校
4年 山口 功太郎



平戸市立細差小学校
2年 塚本 七菜美



雲仙市立南串第一小学校
5年 尊田 航生



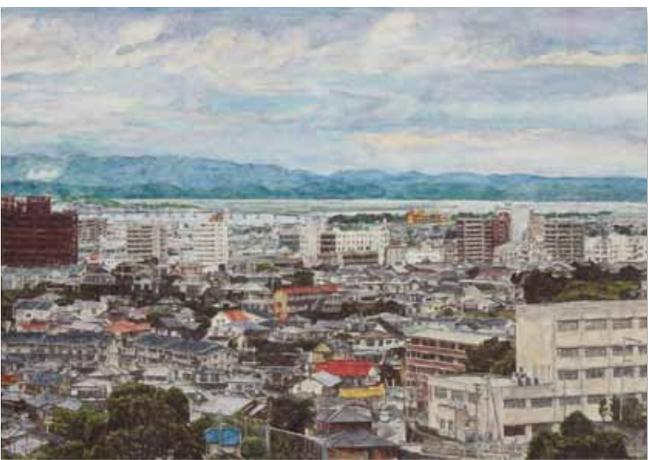
長崎市立香焼小学校
6年 金崎 友哉



大村市立大村中学校
2年 吉野 天斗佳



島原市立第一中学校
1年 小森 真紀子



大村市立大村中学校
3年 吉田 育未



平戸市立度島小学校
1年 山口 佳太



長崎市立城山小学校
3年 沖中 心暖



南島原市立古園小学校
2年 溝田 聖也



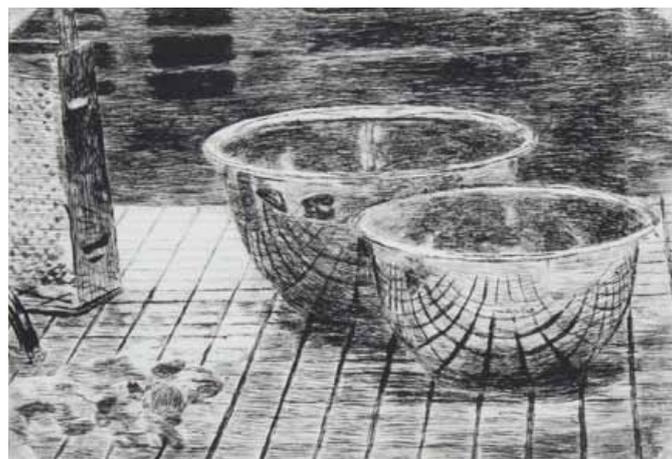
西海市立大島西小学校
4年 徳永 絵美理



時津町立時津小学校
5年 田崎 杏



南島原市立野田小学校
6年 門畑 英菜乃



長崎市立橋中学校
2年 松尾 勇氣



東彼杵町立彼杵中学校
1年 川添 彩加



島原市立第一中学校
3年 岩本 由佳



佐世保市立日野中学校
2年 山本 歩華



佐世保市立三川内中学校
2年 山口 創士

第59回

長崎県小・中学校児童生徒美術作品展「子ども県展」

「特別賞」受賞者名簿

知事賞…20点、教育委員会賞…20点、造形教育研究会賞…20点 計60点

知事賞

【絵画部門】

学 年	学 校 名	氏 名
小学校	1年	佐世保市立天神小学校 笹原 滉太
	2年	長崎市立鳴見台小学校 石川 紗
	3年	長崎市立桜が丘小学校 横尾 拓海
	4年	波佐見町立中央小学校 松尾 亜弥
	5年	対馬市立小綱小学校 齋藤 磨央
	6年	雲仙市立八斗木小学校 北浦 未悠
中学校	1年	平戸市立南部中学校 大山 隆喜
	2年	雲仙市立北串中学校 松島 勇馬
	3年	長崎市立東長崎中学校 川口 美咲

【版画部門】

学 年	学 校 名	氏 名
小学校	1年	佐世保市立広田小学校 谷口 大和
	2年	佐世保市立歌浦小学校 本田 真菜
	3年	対馬市立大船越小学校 金丸 宗蔵
	4年	長崎市立西坂小学校 高木 智也
	5年	松浦市立福島小学校 香川 芽那
	6年	五島市立本山小学校 橋口 祥生
中学校	3年	県立佐世保北中学校 徳勝 もなみ

【デザイン部門】

学 年	学 校 名	氏 名
中学校	1年	島原市立第一中学校 吉田 奈巳
	2年	長崎市立三重中学校 大水 萌々
	3年	平戸市立南部中学校 大村 真子

【立体部門】

学 年	学 校 名	氏 名
中学校	3年	佐世保市立山澄中学校 渡邊のどか

教育委員会賞

【絵画部門】

学 年	学 校 名	氏 名
小学校	1 年	時津町立時津東小学校 田中 陸矢
	2 年	諫早市立小栗小学校 吉永 悠真
	3 年	西海市立西海北小学校 大町 怜由
	4 年	対馬市立小綱小学校 作元 志優
	5 年	対馬市立佐須奈小学校 阿比留小雛
	6 年	諫早市立湯江小学校 大津 祐太
中学校	1 年	佐世保市立相浦中学校 舩元 琉哉
	2 年	平戸市立南部中学校 小川 華
	3 年	大村市立大村中学校 金子 茉由

【版画部門】

学 年	学 校 名	氏 名
小学校	1 年	長崎市立城山小学校 釜田 柚鈴
	2 年	対馬市立大船越小学校 大庭 真衣
	3 年	長崎市立伊王島小学校 森山 美怜
	4 年	長崎市立大浦小学校 下山 唄
	5 年	長崎市立西浦上小学校 平山依桜里
	6 年	佐世保市立大野小学校 山田 希
中学校	3 年	佐世保市立東明中学校 中村 衣里

【デザイン部門】

学 年	学 校 名	氏 名
中学校	1 年	長崎市立橘中学校 田中 穂香
	2 年	長崎市立橘中学校 大西 秀実
	3 年	諫早市立琴海中学校 川原 楓子

【立体部門】

学 年	学 校 名	氏 名
中学校	2 年	島原市立第二中学校 杉岡 神那

造形教育研究会賞

【絵画部門】

学 年	学 校 名	氏 名
小学校	1 年	長与町立長与南小学校 林田 球太
	2 年	平戸市立紐差小学校 塚本七菜美
	3 年	長崎市立城山小学校 峰 宏紀
	4 年	諫早市立長田小学校 山口功太郎
	5 年	雲仙市立南串第一小学校 尊田 航生
	6 年	長崎市立香焼小学校 金崎 友哉
中学校	1 年	島原市立第一中学校 小森真紀子
	2 年	大村市立大村中学校 吉野天斗佳
	3 年	大村市立大村中学校 吉田 育未

【版画部門】

学 年	学 校 名	氏 名
小学校	1 年	平戸市立度島小学校 山口 佳太
	2 年	南島原市立古園小学校 溝田 聖也
	3 年	長崎市立城山小学校 沖中 心暖
	4 年	西海市立大島西小学校 徳永絵美理
	5 年	時津町立時津小学校 田崎 杏
	6 年	南島原市立野田小学校 門畑英菜乃
中学校	2 年	長崎市立橘中学校 松尾 勇気

【デザイン部門】

学 年	学 校 名	氏 名
中学校	1 年	東彼杵町立彼杵中学校 川添 彩加
	2 年	佐世保市立日野中学校 山本 歩華
	3 年	島原市立第一中学校 岩本 由佳

【立体部門】

学 年	学 校 名	氏 名
中学校	2 年	佐世保市立三川内中学校 山口 創士

審査員講評

絵画部門(小学校・低学年)について

絵の主題(テーマ)を自分の興味あるものや、学校生活の中からとらえたものが多くありました。どの作品も伸び伸びと表現しており、うまくかくことよりも「自分の思い」をどのように表現するかを考え、しっかりと描かれています。

実物の形や色にこだわりすぎると、見る人に何を訴えたいかが伝わりにくいことがあります。全体を通して、自分のよさを生き生きと表現し、作者の思いが伝わってくる作品が多かったようです。これからも興味あるテーマをどのように表現していくか、いろいろとチャレンジして、自分のよさを伸ばしてくれることを願っています。

画家 上田 清人

絵画部門(小学校・高学年)について

小学校高学年の絵画作品は、風景や静物、学校生活の一場面、想像した絵などの題材が見られます。今年度は同じ題材でも、視点を変え、構成や線描・彩色の工夫が見られ、思いを伝えようとする表現がこれまでよりも多様に広がっているように感じました。つまり高学年として個々の表現がより磨かれているという印象を受けたということです。

限られた時間の中で、身近な題材に関心をもたせて表現活動をさせるためには、これまでに積み重ねてきた造形体験を踏まえ、より創造的な技能を生かしていくことが必要です。審査では、子どもたちの思いや描かれた場面の様子を想像しながらじっくりと作品を見せていただきました。一人一人が自分の思いを表現できた喜びは、子どもたちに変化と成長をもたらしてくれると信じます。先生方には、表現する喜びと楽しさを味わえる御指導をこれからも期待しております。

画家 松本 治子

版画部門(小学校・低学年)について

手足の形や大きさなどを想像しながら、はさみで紙を切る。切った紙を組み合わせて、動きや表情を表す。紙がはがれないようにのり付けをきちんとする。インクを付けて転写する。このように、紙版画は、いくつもの工程を踏まないと作品が完成しません。低学年の子どもたちにとって、紙版画の制作はとても難しいものです。しかし、作品を完成させたときの達成感や喜びは、他の作品づくりよりも大きいものがあり充実感を味わうことができます。

最近、幼稚園・保育園とのつながりから、ローラー遊びやスタンプ遊びをとおして生まれた作品が増えました。色彩が豊かで明るく、絵画的要素をたくさん含んだ作品となっています。また、白黒で表現した作品の周りに、絵を描いたり色を配置したりした作品もあり、子どもらしい自由な発想の作品も増えています。さらに、スチレン版や布、木葉や段ボール紙などの素材を効果的に生かした作品もあり、作品を詳しく鑑賞してほしい気持ちになります。

造形教育研究会長 森川 恒雄

版画部門(小学校・高学年)について

今年の作品は、例年と比べて表現が多様で、個性的な表現の作品が多くあり、とてもすばらしかったです。彫りや刷りの技術、画面づくりなどには、先生方の熱心な御指導の跡が多々感じられました。そのような中でも輝いていたのは、子どもの発達段階に応じて個性を生かし、子どもの興味や関心を大いに増幅させたであろう作品でした。技術的には年齢相応でも、何ともいえない素直な色や形の作品は素朴な魅力となって私たちの心を引き付けてやみませんでした。

これから作品に取り組むときには、技術的なことも大切ですが、自分が表したいものを思い切って色や形に表す気持ちが一番大切だと思います。それをもっと強く表現するためにも美術館などでたくさんの名作や身近な世代の力作を鑑賞し、優れた作品に数多く触れることで目を肥やし、自分らしい表現を生み出す糧としてください。

長崎県美術館 塩田 貴之

審査員講評

絵画部門(中学校)について

特別賞候補作品を前に審査員のみなさんは、①発想・構想、②表現力・技術、③制作への思いを審査基準としてそれぞれが選定にあたりました。特選作品から選出された特別賞作品は、身近にある風景の一瞬をとらえた作品、親しい友人をモデルにした作品、超現実的な世界を描いた作品など、具象・半抽象などの個性豊かな作品群です。子どもたちの光る個性を尊重しながら、投票および協議の中で審査は進められました。

特別賞に選出された知事賞、教育委員会賞、造形教育委員会賞の作品、また、会場に展示される多くの特選作品から「作者のメッセージ」を多く感じ取りたいものです。将来を担う子どもたちのなお一層の御活躍を願ってやみません。

画家 松下 卓生

版画部門(中学校)について

出品された作品は木版(単色・一版多色)、ステンシル、スタンプ、ドライポイント等、版種が多岐にわたり密度の濃い作品群でした。版画は一般的に、下絵を描く(描画)、彫る(製版)、刷るという過程があって作品が完成します。素材や技術上の制約が作品に大きく関わります。しかし、この制約が、思わぬ効果を生み出すこともあり、それが版画の魅力にもなっています。今回、版画としては比較的大きな作品が多い中、小さくても密度の濃さで大作に引けをとらない作品もありました。全体的には、刷りに課題が残る作品が多く見られました。刷りは版画の魅力の一つです。インクの盛りつけや拭き取りに注意すると作品がさらによくなります。それにしても完成度の高い素晴らしい作品群でした。

感受性豊かな中学生による、様々な技法により制作された版画作品を御覧になり、その魅力を感じてください。

造形教育研究会副会長 岩永 嘉人

デザイン部門(中学校)について

昨年からまた一段と全体的にレベルが向上しているように感じます。授業内容の向上と先生方の情熱が作品に現れている結果だと思えます。

作品内容は例年通りさまざまなアイデアや表現技法を凝らし、コンピュータ処理などを感じさせない、オリジナリティと感性を感じる作品が多く見受けられたことは望ましいことです。特に受賞をした作品は視覚的にも印象強く、見た人に訴える力を感じさせる作品になっています。

授業の延長での作品づくりと言うこともあり、全体的に基礎的な表現での作品になっているようです。平面構成や色彩構成などからもう一步踏み込んで、ポスターや意見広告などデザインならではの社会性を持つ作品や、中学生の目線で創造する作品にチャレンジしてみても面白いような気がします。本来デザインが持つアピール性を備えた作品づくりを期待します。

デザイナー 志田 慎二

立体部門(中学校)について

今回の審査の中で感じたことは、いろいろな材料の使用にも関わらず、生徒たちが逃げずに、丁寧に真摯に作品の仕上げに向かった姿勢に驚かされるとともに、心が温まる思いでした。またそれらには、それぞれの楽しさや制作中の興奮がそこかしこに表れてもおり、子どもたちの今後の成長発達の姿が目に見えそうです。

作品をきちんと作り上げることや、いろいろな材料を扱う経験をするには、辛さと共に楽しさがあるものですが、最も大切なのは、面白さにしても楽しさにしても、それらを制作の最中に感じている自分を知ることなのだと思います。自分はこんなところに面白さを感じている、自分はこんなところが大好きなんだ、というような経験から生まれる「気づき」を大切にするように努めてください。そうすることで豊かな生活の基盤が広がっていくと考えるからです。

長崎大学教育学部教授 佐藤 敬助



長崎県

長崎県教育庁学芸文化課

長崎市江戸町2-13 TEL:095-894-3385